

大雪山国立公園内スノーモビル等の乗入れ規制調整会議(令和2年度)議事概要

1. 日時 令和2年12月18日(金) 10:30～11:30
2. 場所 東川町農村環境改善センターホール
3. 出席者 会議資料「出席者名簿」のとおり(当日欠席:層雲峡ビジターセンター)
4. 議事概要

(1)スノーモビル監視活動の今後の対応方針について

環境省大雪山国立公園管理事務所から、資料1に沿って説明した。

- 平成20年度以降の大雪山国立公園及びその周辺地域におけるスノーモビルの乗入れ状況について令和元年度に整理・分析したので、本会議でも改めて説明させて頂く。今後の取組方針及び実施する取組についても整理を行った。
- 全般的には、平成26年度以降、監視活動で確認されたスノーモビルの乗入れ台数は減少傾向にある。表大雪地域で言えば、例えば北見峠では中越からの乗入れや浮島峠への乗入れなど、乗入れ経路が分散しており、ペーパンや幌倉沼、俵真布では増加、減少傾向を繰り返している。このように侵入拠点の移動、年次変動がある中では、実態把握をすることは難しい。
- 今後の対応方針としては、普及啓発による未然防止に重点を置き、費用対効果の高い方法で乗入れ情報の把握、普及啓発を図る必要がある。
- 従前の取組(会議、合同パトロールの実施や看板・カメラ設置)に加え、今年度から、①インターネットパトロール(SNSなどの検索による情報把握)の実施 ※スノーモビルの利用時期が多い時期に実施 ②効果的なパトロール手法の検討(令和2年度については、グリーンワーカー事業による請負(上士幌で実施予定))を実施したいと考えている。

(2)令和元年度シーズンにおけるスノーモビル等乗入れ規制対策実施結果について

環境省大雪山国立公園管理事務所から、資料2～4に沿って説明した。

- 監視カメラによる利用実態調査について、主な概況は以下のとおり。

全般的な傾向：時期は1月、3月に多く、曜日は日曜日が最も多く、土曜や祝日も平日に比べるとやや多く撮影された。

北見峠：確認台数が増加しており、1月中下旬、3月下旬～4月中旬の週末などは、北見峠駐車場が一杯になるほど牽引車が確認された。昨年度は雪が少なかったため、比較的積雪量の多かった北見峠に集中したと思われる。

アンガス牧場：林道への乗入れはほぼなく、軽装備であったことから国立公園内への乗入れはないと思われる。今後は巡視により動向を注視していく。

俵真布：毎年、狩猟目的による乗入れを確認していたが、今回はバックカントリー目的による乗入れのみ確認。前回、カメラの角度をずらす悪戯をしたグル

ープと同一のグループと見られ注視が必要。また、地元住民より、令和2年3月2日に道道718号 忠別清水線俵真布第二ゲートの鍵の一部が壊されていたと情報提供あり。悪質な行為として注視が必要。

宇莫別：近所の方曰く、毎週末牽引車がいるとの情報から、今年度新規で規制看板及び監視カメラを設置した。結果として乗り入れの確認は、少なかったが、引き続き継続していく。

その他の場所についても、減少傾向が見受けられないため、引き続き巡視やカメラによる監視を行い、注視して状況を確認していく必要がある。

○(1)、(2)についてご質問はありますでしょうか。

(上川町)

- アンガス牧場について、林道に設置した監視カメラは令和元年度から設置したものか？それ以前も設置していたのか？
- 令和元年度より前は設置しておらず、乗入れ規制看板による周知で対応していた。(環境省)

(3)令和2年度シーズンにおけるスノーモビル等乗入れ規制対策について

環境省大雪山国立公園管理事務所から、資料5～7について説明した。

- 乗入れ規制看板及び監視カメラの設置について、昨年度の状況を踏まえ、上川管内では、北見峠で確認台数が多かったため、実態把握のために監視カメラを追加するほか、ペーパンでは監視カメラの設置場所を変更する。また、アンガス牧場については看板及び監視カメラの設置は行わない。東川管理官事務所管内について、設置場所等、昨年度からの変更はない。
- 普及啓発活動実施要領（案）について、重点地域は変更なし。重点活動日について、北見峠、旭川市東旭川（ペーパンダム）は昨年度の結果を踏まえ、1月下旬に実施することを検討している。合同パトロールの実施についてご協力をお願いする。
- 令和2年度の普及啓発活動実施要領（案）についての意見、取組を進める上で参考となる情報や関係団体の取組など、一言ずつ頂きたい。

(北海道警察 旭川方面本部)

- 規制の周知と啓発が基本になると考えている。カメラを気にしている様子が見受けられるので、カメラには一定程度の効果があると思う。山間部の知見があまりないので、皆さんのご協力をお願いしたい。

(旭川東警察署)

○監視カメラへの悪戯、最悪の場合、壊されることも想定される。その場合は通報し、届出してもらえれば対応させて頂く。悪質な場合は刑事告発も視野に入れることになるため、情報提供をお願いするが、犯人、時間、場所、機材、何があったかの記録を整理し、立証しなければならない点に留意してほしい。

(上川中部森林管理署)

○通常の巡視業務の中で国有林への乗入れがないか監視している状況。林木の生育や植生保護の観点から、国有林内への乗入れを認めていないという立場である。昨年度、北見峠での合同パトロールに参加したが、集合した時には既に林内に乗入れられていた。ドローンも飛ばしたが、追跡しきれなかったため、実施する時間帯の検討も必要に思う。

(上川総合振興局 南部森林室)

○昨年度、道有林（瑞穂）への乗入れ跡が確認されたため、今年度、林道の入口に監視カメラを設置した。撮影結果については、情報提供できることがあればさせて頂く。

(上川総合振興局 環境生活課)

○東幾寅での確認台数は増加しているが、実際に国立公園内の乗入れ規制区域まで到達しているか分からない状況だと思われる。環境省としては、乗入れ規制区域に到達していなければ問題ないという認識でよいのか？ 問題ないのであれば、実態を把握することが大事と思う。

→ 実際にどこまで乗入れているか、場所は検討中だが調査する予定。自然公園法上は乗入れ規制区域に到達していなければ問題ないという考え。一方で、国有林内に乗入れているということであれば、国有林内への乗入れは認められないということなので、関係機関で協力して対応する必要があると考える。(環境省)

(大雪山国立公園パークボランティア連絡会)

○予算の関係でセスナ機による監視活動は中止したとのことだが、ドローンの活用を考えて欲しい。過去の事例では、航空機による監視で検挙した例があり、道警と協力して、取組を進めて頂ければと思う。

→ セスナ機による監視活動のために継続的に予算を使用することが認められなくなってしまったが、ドローンという新しい技術があるため、それを活用した取組を検討していきたい。(環境省)

(美瑛山岳会)

○外国人は体力があるため、バックカントリースキーもいろんな場所からアプロー

ちするものとする。宇莫別地区で確認されたバックカントリースキー目的の乗入れについては、他の地域でもあったが、ガイドが案内している可能性が考えられるため、ガイドへの呼びかけなどの対応も必要だと考える。

（東川山岳会）

○昨年度、道道 1116 号線の江卸から 21 世紀の森までを往復したが、車両がたくさん入っていた。多く人が来るのであれば、スノーモビルも入っていると思われるので、この場所に監視カメラを設置してみるのもよいかもしれない。

（上川南部森林管理署）

○スノーモビル乗入れに対する考え方は上川中部森林管理署と同じ。昨年度、今年度の管内における乗入れ状況について、十勝岳周辺、国立公園内への乗入れは確認していない。今後も関係機関と協力して対応したいと考えている。

（上川教育局）

○植生保護の観点から、関係機関が連携、協力して取り組むことはとても大事だと思う。昨年度の 3 月まで国立大雪青少年交流の家で勤務しており、施設にはドローンがあったため、連携して何か取り組めるのではないかと考える。教育局として、チラシとの配布、普及啓発など協力させて頂きたいと思う。

（上川町）

○関係機関と協力して取組を進めたいと考えている。北見峠は重点地域であるため、積極的に活動に参加していきたいと思う。

（東川町）

○旭岳温泉街にはクロスカントリースキーコースがあり、道有林、国有林にまたがるため、関係機関と調整して、圧雪車、スノーモビルを乗入れている。昨年度、合同パトロールに参加しており、協力できることがあれば、今年度も取り組んでいきたい。旭岳ビジターセンターにスノーモビル乗入れの問い合わせがあった際は、制度など周知していきたいと思う。

上記を踏まえ、令和 2 年度の対策について、出席者から資料のとおり進めることで異議無く了承された。

（4）その他

特になし